

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

913

資源リサイクル事業

[長期総合計画]

分野別目標	2	住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
政策	4	自然と共生する環境にやさしい社会の形成
施策	2	循環型社会の形成
取組方針	1	ごみ減量の推進

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計		一般会計	
	款		衛生費	
	項		清掃費	
	目		塵芥処理事業費	
	大事業		塵芥処理事業	
	中事業		資源リサイクル事業	

事業種別	継続		関連個別計画	一般廃棄物処理基本計画		
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	一般廃棄物課	森本 延幸 435-1352
事業実施の根拠法令				関連課	収集センター	

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	缶・ビン・紙・布等を資源としてリサイクルする。		循環型社会の形成を目指し、廃棄物の減量と有効利用するため、缶・ビン・紙・布等を中間処理の段階で資源としてリサイクルするための事業			
事業内容	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	
	一般家庭から収集された下記量の資源ごみを資源化した。 かん 696.89トン びん 2,210.75トン ペットボトル 1,180.64トン 紙 2,238.45トン 布 731.66トン	一般家庭から収集された下記量の資源ごみを資源化した。 かん 788.82トン びん 2,230.12トン ペットボトル 1,240.23トン 紙 2,754.27トン 布 896.54トン	一般家庭から収集された下記量の資源ごみを資源化した。 かん 706.89トン びん 2,184.52トン ペットボトル 1,314.98トン 紙 2,747.06トン 布 780.57トン	缶・ビン・紙・布等を資源としてリサイクルするための処理をする。	缶・ビン・紙・布等を資源としてリサイクルするための処理をする。	

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成31年度		令和02年度		令和03年度		令和04年度		令和05年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	36,912	33,460	40,180	40,251	83,890	55,941	74,308	0	74,308	0
伸び率(%)	△9.2%	7.2%	8.9%	20.3%	108.8%	39%	△11.4%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	8,216	7,893	7,803	7,087	6,904	6,827	7,447	0	0
	正規職員以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	8,216	7,893	7,803	7,087	6,904	6,827	7,447	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	6,800	6,119	6,600	946	640	918	962	0	962	0
一般財源(税等)	30,112	27,341	33,580	39,305	83,250	55,023	73,346	0	73,346	0
所要人数(人)	正規職員	1.02	0.98	0.98	0.89	0.89	0.88	0.96	0.00	0.00
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳	手数料 74,175千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
出前講座回数		回	目標値	120	100	100	100	100
			実績値	109	73	72		
			達成度(%)	90.8%	73%	72%	%	%
一般廃棄物のリサイクル率		%	目標値	13.16	14.52	14.52	14.52	14.52
			実績値	7.90	8.9	8.5		
			達成度(%)	60.0%	%	%	%	%

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正		負担は求められない	○ 見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	平成23年7月から雑がみを紙の一種として分別収集を開始し、収集資源を再生利用する取組が進んでいる。平成28年4月からは新しい分別収集による資源の有効活用を図る。平成30年4月に青岸ストックヤードがオープンし、市民が自己搬入するごみから資源化可能なものの選別をすることでごみの減量及びリサイクルを推進している。また、市民の自己搬入に対応し、ごみの見える化を進め、ごみ減量に対する意識の向上に寄与している。
見直し・改善内容	和歌山市一般廃棄物処理基本計画により、令和2年度目標とした対平成22年度比総ごみ量約30%減を目指し、様々な取組を行っている。平成28年4月からは、今まで分別収集していたプラスチック製容器包装を、週2回の一般ごみとして回収し、焼却することでごみ発電（熱回収）による有効活用を行っている。3Rの理念はリサイクルよりもリユースが重要であることから、平成28年度より紙と布を別回収し布を古着としてリユースすることに取り組んでいる。「青岸ストックヤード」において、かん、びん等の資源搬入に対応し、今まで焼却していた青岸清掃センターに自己搬入されるごみに含まれる資源を選別・ストックするなどにより資源化と、焼却ごみの削減に取り組んでいく。資源物の国内価格の下落が起こり、より品質の高い分別の指導啓発が必要。